

# 美の境地

細見古香庵生誕120年記念

細見美術館

2021.  
8.24 |火| ▶ 10.17 |日|

開館時間=午前10時-午後5時(入館は午後4時30分まで)  
休館日=毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜日)  
入館料=一般 1,300円 学生 1,000円  
主催=細見美術館 京都新聞  
会場=細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3  
075-752-5555 <http://www.emuseum.or.jp>



急激な状況の変化により、止むを得ず会期・営業日時等を変更する場合があります。詳しくはホームページをご覧ください。

上)重要文化財 豊公吉野花見図屏風(部分) 桃山時代  
下)重要文化財 金銅春日神鹿御正体 南北朝時代

The 120th Anniversary of Hosomi Kokoan's Birth: The State of Beauty







普賢菩薩像 平安時代後期

細見コレクションの礎を築いた初代細見古香庵こと細見良（1901〜79）。  
蒐集した美術品は土器にはじまり、仏画、和鏡、密教法具、茶の湯釜、根来、七宝など多岐にわたります。古香庵はこうした蒐集品を茶会やもてなしの場で用いてきました。その独自の美意識は当館の展示スタイルにも大きな影響を与えています。本展では生誕120年を記念し、古香庵が既存の価値観にとらわれず、厳しくもユニークな鑑識眼で蒐集した作品を紹介します。中でも、「モノの形の厳しさと甘さ」を学んだ平安時代の「金銅五鈺鈴」などの金工品や、「世界最高の美術品は日本の藤原時代の仏画である」という信念のもと蒐集した「愛染明王像」や「普賢菩薩像」、敬愛した豊臣秀吉を描く「豊公吉野花見図屏風」、茶の湯釜に開眼するきっかけとなった「芦屋葎地楓鹿図真形金」は、古香庵の美意識の核心をなす作品といえます。この機会に、古香庵愛蔵の品々と対峙し、執念のコレクターが至った「美の境地」に触れてみてください。



七宝夕顔文釘隠 桃山時代



志野茶碗 銘「弁慶」 桃山時代

重要文化財 芦屋葎地楓鹿図真形金 室町時代



重要文化財 金銅五鈺鈴 平安時代後期



**細見良**

初代古香庵。明治34年、兵庫東美方郡浜坂町栃谷の農家に生まれる。10代で単身大阪に奉公に出た後、毛織物業界に入る。24歳で独立を果たし、30代に事業を拡大。この頃から古美術蒐集を始める。泉大津に邸宅を建てたのを機に、京都・嵯峨・天龍寺の関精拙老大師より「古えの香り充つるゆかしき庵」「古香庵」の号を授る。60歳で事業から引退し、以降「古美術三昧の日々を過ごした。

**[交通のご案内]**

- 市バス「東山二条・岡崎公園口」下車、徒歩3分。
  - 市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車、徒歩5分。
  - 地下鉄東西線「東山」駅下車、徒歩10分。
- ご来館には公共交通機関をご利用ください。

京都市左京区岡崎最勝寺町6-3  
TEL 075-752-5555  
<http://www.emuseum.or.jp>

**細見美術館**



次回展予告	特別展 虫めづる日本の美—養老孟司×細見コレクション— 2021年10月29日(金)～2022年1月23日(日)
-------	---

